

# せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>

おかやまコープ主催

## コープフェスタ2019 2万人の参加で開催

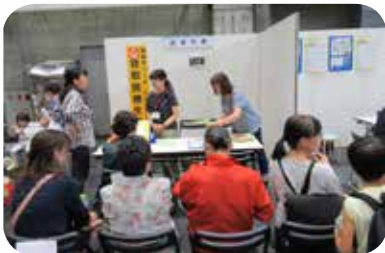


9月28日(土)、コンベックス岡山にて、おかやまコープ主催のコープフェスタ2019が開催され、全体で2万人の方が訪れ、終日賑わいました。

### 3つの医療生協が、健康チェックコーナーを担当し、7つのブースで参加

岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協の県内にある3つの医療生協は、健康チェックコーナーを担当し、7つのブースの出展を行い、たくさんの方が参加しました。

血管年齢測定、骨密度測定、足指力測定、血圧・BMI測定、子ども体力測定、すこしお生活、医療生協紹介ブースの7つのブースでは、多くの方が訪れ、とても好評でした。また、すこしお生活のブースでは今年も岡山県栄養士会と連携しました。



血管年齢測定



血圧・BMI測定



すこしお生活

### 協同組合連絡協議会では、ブース出展し、SDGsと協同組合をアピール

協同組合連絡協議会では、県生協連、JA岡山中央会、県漁連でSDGsと協同組合コーナーとして、SDGsに親しんでいただくための輪投げブースや「陸の豊かさを守ろう」と「海の豊かさを守ろう」の持続可能な開発目標に関連したブースを展開しました。



県生協連の  
「SDGs 輪投げ」



JA 岡山中央会の  
「田んぼの役割、生き物」



県漁連の  
「瀬戸内の生きた魚」

### SDGsと協同組合



協同組合の理念や取り組みはSDGsと重なり合っています。SDGs実現の役割発揮を期待する民間セクターとして、協同組合が位置づけられています。

14

海の豊かさを守ろう





## 岡山県菊池副知事との懇談を行いました。

10月29日(火) 13時  
県庁3階応接室

### 生協への理解を広げ、諸課題について意見交換

岡山県から、菊池副知事、くらし安全安心課倉森課長、今岡総括参事、藤原副参事に出席いただき、県生協連から、会長、副会長2名、組合員理事4名、事務局長の計8名が出席しました。

冒頭、副知事のご挨拶で、西日本豪雨災害に対する義援金や支援に対するお礼の言葉がありました。

生協から、全国ならびに岡山県の生協の現況や、現在、生協が大切に考えている活動として、SDGsに重なり合う生協の理念や活動について、地域社会づくりの取り組みで役割発揮をすすめていること、また、日本の生協の2030年ビジョンを作成していることや生協へ寄せられる期待などの報告をしました。

副知事から、SDGsは先進国では、少子高齢化や働き方改革など、別の切り口で取り組む必要を感じていることやSDGsの「誰一人取り残さない」という理念は、県行政の仕事や役割そのもののすべてを指していること、また、他の小売業とは違う理念を持ち、組合員主体の運営で組合員が利用する生協こそが、持続可能な小売業として確立されていく必要があることなどのお話がありました。その後、副知事が岡山県と韓国・慶尚南道の



友好交流協定10周年行事で韓国を訪問したことにふれられ、日韓両国政府は関係悪化の状況だが、韓国の国民には反日感情はなかったことや韓国ではレジ袋が配布されないことなどの話があり、報道のあり方や韓国が「協同組合基本法」を運用していることなど交流を行いました。また、コープのエシカルとして進めているエシカル消費の具体的事例や医療生協が進めている「すこしお生活」などの紹介も行い、意見交換を行う中で生協への理解を深める懇談を行いました。

## 岡山県行政との定期懇談を行いました。

10月29日(火) 14時  
県庁地下1階会議室

### 岡山県への「要望書」の回答を受け、意見交換

2019年度の岡山県への「要望書」は、①災害対策、災害支援、②買い物弱者への対応 ③食の安全とエシカル消費 ④県内農林水産業の育成 ⑤食品ロス削減に向けたフードバンク活動への支援 ⑥環境保全、プラスチック排出量の抑制 ⑦健康づくり、健康寿命の延伸 ⑧地方消費者行政の推進の8項目について8月に提出しました。その「要望書」に対する回答を受け取る県行政との定期懇談を行いました。

岡山県から、くらし安全安心課3名を始め、要望項目の管轄部署8名の計11名、県生協連から9名が参加しました。

懇談では、回答に加えて、西日本豪雨災害で被災した自宅の約7割が建て替え希望となっていること、被災者の後期高齢者の医療費免除措置は、続けてあげたいが保険者が決めることであり、現在、延長は聞いていないこと、買い物弱者対応では、今までのハード面での支援から市町村と連携しながら支援する制度として、ソフト面での支援に取り組んでいることや、市町村の意向に基づいて県行政が関わる支援を進めていること、食品表示の周知は、経過措置期間の切れる来年に向けて準備すること、ごみゼロ社会プロジェクトの会議ではレジ袋有料化は俎上になっていないこと、消費者行政予算では、少なくとも市町村の相談体制は維持していきたいことなど、質疑応答や意見交換を行いました。担当部署との直接のやり取りができ、深まった点がある一方、要望項目の分野で前進面を引き出したり、次につなげていくためには、さらに要望の出し方にも工夫が必要であることなど、課題も明確になりました。



# 「ヘルスチャレンジ2019」に取り組んでいます。



## 健康づくりのきっかけづくり、 毎年、参加者が増加中!

「ヘルスチャレンジ」は、生活習慣を見直すことで、健康寿命を延ばすことや健康づくりのきっかけとすることを目的に、誰もが気軽に取り組める企画として、県内の医療生協を中心に各会員生協全体で取り組んでいます。県生協連の主催となった2012年からの参加者は、右の表のように毎年伸び続けています。2019年は、さらに、県内のJA女性組織協議会など、他の協同組合の皆さんにも参加の呼びかけを広げました。

### 参加者の推移

2012年	4,157人
2013年	4,716人
2014年	5,698人
2015年	7,444人
2016年	10,136人
2017年	11,519人
2018年	13,286人

## 岡山県主催 おかやま健康づくりアワード2019「健康フェア」に出展

9月22日(日) JR岡山駅前広場にて、岡山県が昨年から実施している「おかやま健康づくりアワード」の「健康フェア」に、県生協連としてブース出展し、ヘルスチャレンジなど、岡山県で健康づくりを推進していることをアピールしました。岡山医療生協の協力を得て、足指力測定も行いました。

### 出展団体

岡山県、県歯科医師会、県愛育委員連合会、県栄養改善協議会、県国民健康保険団体連合会、健康保険協会岡山支部、県健康づくりセンター、県栄養士会、健康運動指導士会岡山支部、岡山大学病院、3B体操協会、日本生命、SOMPOひまわり生命、岡山県生協連



# 第35回中四国生協・行政合同会議が香川県で開催されました。

## 生協と行政が一緒に取り組めることをディスカッション

8月28日(水)、リーガホテルゼスト高松にて、『みんなが安心してらせる地域づくり～SDGsの視点で行政と生協が一緒に取り組めること～』をテーマとして、第35回中四国生協・行政合同会議が開催されました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室田仲教泰室長から、生協と行政が一堂に会し、情報共有をはかり、地域のこれからの課題に対して、目線合わせをしていくことはとても大切であること、人口減少、少子高齢化の進展、引きこもり、児童虐待など、人と人とのつながりが弱まっている中で、つながりを強固にするとともに、住み慣れた地域で住民一人ひとりのくらしや生きがいを創っていく地域共生社会の実現をはかる上で、生協は、その先駆けとなる組織であること、また、生活困窮者の課題やフードバンク活動などに対しても、生協の強みを生かした取り組みを期待していること、また、くらしの変化やニーズの変化に対しても、生協の対応に期待していることなど、挨拶がありました。



活動報告は、以下の3つのテーマについて、特徴的な取り組みや活動報告がありました。

- |                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| ① 「香川県におけるエシカル消費の取り組みについて」     | 香川県消費生活センター        |
| ② 「困ったときはおたがいさま～地域の中でのささえあい～」  | おたがいさま高松           |
| ③ 「西日本豪雨災害支援 活動報告 ～行政と連携した支援～」 | 広島県危機管理課<br>広島県生協連 |

グループ分散会では、全体を10グループに分け、「行政と生協が一緒に取り組めること」をテーマにワールドカフェ方式でディスカッションを行いました。一緒に取り組めることについて、参加者それぞれの思いを出し合い、深め合い、共有し合う中で、今後に向けての方向性やアイデアのようなものが少しずつ明確になっていきました。また、このようなテーマについて、生協と行政が一緒になって意見交換できる場を持てたことにも意義があったと評価できる分散会となりました。



# 第33回「岡山県消費者大会」 14団体242名の参加で開催

## 楽しく、わかりやすく「憲法」を学習

10月31日(木)オルガホールにて、第33回岡山県消費者大会が「憲法について、わかりやすく、学びましょう」をテーマに、14団体242名の参加で開催されました。

主催者を代表した岡山県消団連近藤清志代表幹事(県生協連会長)の開会挨拶の後、第一部の講演では、生協総合研究所の理事で事務局長の小熊竹彦氏から、「憲法って何?憲法改定のポイントは?」をテーマに、憲法とは何か、憲法改定の焦点について、クイズも交えてわかりやすく解説していただきました。①立憲主義②第9条と自衛隊③緊急事態条項の3つのキーワードがポイントとなっていて、ここを理解することが大切であると話され、立憲主義の本質は、憲法によって国家の権力を制限するという考え方であり、国民が国家を縛るためのルールであるということ、憲法論議の争点となっている点として、2015年に集団的自衛権の行使容認、後方支援の範囲拡大、PKOでの武器使用が可能になるなど自衛隊の性格が根本的に変わったことを念頭におき、第9条の改定論議を考える必要があること、また、緊急事態条項も争点となっており、内閣総理大臣の権限でほぼ無制限に緊急事態が宣言でき、内閣に権力を集中することは、世界や日本における過去の暴走事例から見ても、憲法の基本的なあり方に関わる重要な問題として考える必要があることを話されました。最後に、今後に向けて、大切なこととして、①学習すること②話し合うこと③意思表示をしていくことの3点を強調されました。

第二部の公演では、芸人でパントマイマーの松元ヒロ氏による、ひとり芝居「憲法くん」を鑑賞しました。軽妙な語り口とパフォーマンスで笑いの絶えないステージの中、最後の演目として演じた「憲法くん」は、憲法の本質や憲法を守ることの大切さがひしひしと伝わる、力のこもった感動的なステージとなりました。

今まで、学校で少し勉強したぐらいだった「憲法」について、「わかりやすく」、かつ「楽しく」学ぶことができ、また、一人ひとりが憲法改定について、自分なりに考え始めるきっかけになったのではないと思う消費者大会になりました。

最後に、岡山県消団連幹事でおかやまコープ全体理事の金高さおりさんより、第33回岡山県消費者大会の大会決議案が提案され、満場一致の拍手で確認された後、消費者大会を終了しました。



小熊 竹彦氏



松元 ヒロ氏

### 寄せられた参加者の感想から

- わかりやすい講演で、たいへん勉強になった。今後、学習する事の必要性和意欲を受け取りました。
- 複雑で難しい問題を短時間で、ポイントを押さえ、「頭に残るように」話していただき有難かったです。
- 今までに聞いた憲法の話の中で一番簡潔でわかりやすかったと感動した。井戸端会議で話せそう。
- 学習する大切さを痛感したので、これから友人とのおしゃべりの中に憲法の話を取り入れたい。
- 学習すること、話すこと、自分の意思を持って行動することが大切なことを改めて感じました。
- 日ごろから知っているつもりでも知らない事ばかり。「憲法を変える」ことの持つ意味がわかった。
- 憲法改定するかどうかは、私たち国民一人ひとりの意向が反映されるものでなければならぬと思います。そのためにも、学習して知ることが大切だと感じました。
- こんなに笑ったのは久しぶりです。笑いの中で憲法の大切さを学ぶことができるとてもよかった。
- 講演と公演の二階建ての内容で、とても得した気分です。忘れられない、充実した良い時間になりました。



## 岡山県学校生協

### 《創立70周年記念企画 東日本被災地視察研修》

2019年8月22日(木)～24日(土)の二泊三日、組合員様とご家族、ご友人総勢15名で東日本被災地(仙台・南三陸町)視察研修に行ってきました。

一日目は仙台空港より塩釜港、松島湾遊覧、五大堂・瑞巖寺。二日目は貸切バスの車窓より石巻市、女川(おながわ)町では現地の語り部に津波到達地点などを案内してもらい、実際に大川小学校跡地にも立ちました。三日



目は気仙沼の魚市場外側周辺で当時の様子を現地の語り部に案内してもらい、厳美溪や世界遺産 平泉/中尊寺を見学しました。参加して下さった組合員様とご家族、ご友人、添乗員、バスガイド、バスの運転手、現地の語り部、現地の案内人など、全てが人に恵まれた研修となりました。



## 岡山医療生協

### 《新しい協力店で新健康チェックシステム》

岡山医療生協では血圧や、体組成計、握力、骨密度、血管年齢の測定結果を組合員番号を基に蓄積出来る健康チェックシステムを導入しました。

8月29日(木)イオンスタイル岡山青江店さんのイートインスペースを会場に新システムで健康チェックを実施し、9時から11時までの間に24名のチェックを行いました。計測した結果が蓄積されるという事で新規の組合員加入が5件もあり、データの蓄積が待ち望まれていることを改めて気付かされました。

また、グランドオープンしたばかりのイオンスタイル岡山青江店さんから、地域の健康づくりを進めている医療生協の取り組みを是非一緒に盛り上げたいとの声かけを頂き、健康チェックとすこしお料理の試食を初めてこの会場で行いました。

今後もイオンスタイル岡山青江店さんでの健康チェック定期開催を目指し、地域の健康づくりと医療生協活動の広がりに繋がっていけばと思います。



## 倉敷医療生協

### 《健康づくりのつながりが平和の取り組みに》

倉敷医療生協の支部は、それぞれの地域の中で地域の様々な人々と連携しながら健康づくり活動をしています。

そうした日頃の活動の中で生まれた“つながり”が健康づくり以外の活動にも広がります。毎年毎年9月9日に、日本国憲法を守り世界の恒久平和を求めて“平和の鐘つき行動”が各地で取り組まれています。

今年は日頃のつながりから、笠岡・井原・鴨方の3寺院で新たに平和の鐘つきをすることができました。寺院の関係者の皆様や周辺住民の方々に、平和を願う取り組みの趣旨が広がっています。



### 《ひろがる学習の輪(オーラルフレイル予防)》

倉敷医療生協では、2019年度より健康事業部に歯科衛生士を配置して、オーラルフレイル予防の取り組みをすすめています。

座学の学習だけでなく、滑舌チェックや知って得するクイズやお口を元気にするゲームなどを取り入れ、参加者が楽しく学べる場をつくっています。

4月にスタートして29会場556人も参加者があり、お話を聞いた方からまた別の方に紹介がされて学習の輪がひろがっています。





## 会員生協トピックス

### 三井造船生協

#### 《たまの旬のさんま祭り ～さんまを食べて、東北支援・交流を～》

東北支援・交流イベント「たまの旬のさんま祭り」が10月6日(日)、三井生協本部店と玉野魚市場の2会場で開催されました。宮城県気仙沼市直送の



新鮮な生さんまを「吉備笹の葉焼さんま隊」と玉野高校ボランティアの生徒さんが、炭火でおいしく焼き上げて販売しました。本部店では同時開催として、東北のお土産市やかも川手延べうどん試食販売、手作り炊き込みご飯販売も行われ、たくさんのお客様で賑わいました。



また、西日本豪雨災害義援募金活動も実施しました。

### 岡山県労済生協 (こくみん共済 coop 岡山推進本部)

#### 《「まびフェス」を共催》

6月30日(日)、倉敷市立蘭小学校にて「まびフェス」を共催しました。このイベントは2018年7月西日本豪雨の際にボランティアで真備町を訪れていたアーティストと地域住民の方との手作りで開催してきました。

当日の朝は雨が降っていましたが、イベントの開始時には雨も上がり、約550名の方が来場されました。「真備町に色と音」をテーマに、「色」では地域の保育園・幼稚園等の園児による会場装飾が行われ、「音」では真備中学校・真備東中学校の吹奏楽部による演奏が行われ、各出店と合わせて、大盛況に終了し、地域住民の方の今後につながる活動とすることができました。



### 岡山大学生協

#### 《学内移動弁当販売の取り組み》



岡山大学生協では津島キャンパス内で4カ所の食堂(喫茶)営業、及び4カ所の購買で組合員への食事対応をしていますが、唯一「津島地区西キャンパス」エリアに限っては生協店舗の展開ができていませんでした。そこで10月1日より同エリアでの食の利用環境改善対策として「キッチンカー」を用意し、弁当・パン・飲料などの販売を開始する事になりました。当面は昼食需要に応える事を目標に11時45分～13時30分の販売時間帯で普及を進めていきたいと考えています。



### 津山医療生協

#### 《つながりマップ学習会を開催》

9月21日、平福診療所2階のふれ愛ホールにて、つながりマップ学習会が開かれました。

講師は高知医療生協組織部部長の高橋健さん。

高知医療生協のつながりマップ作りでは、「医療生協も行政も他団体も把握できていない地域資源がいっぱいあることがわかった」「各団体の強みを生かして、それぞれでやれること、一緒にやれること、みんなで作ることを話し合う機会になった」といった新たな発見があったそうです。

学習会に参加した人からは、「自分の身近なところならできるかもしれない」「将来的に作ってみたい」といった前向きな意見が聞かれ、つながりマップ作成に向けてとても有意義な学習会となりました。





## おかやまコープ

### 《NPT再検討会議に向けて、平和活動をすすめています》

おかやまコープは、2020年の「NPT再検討会議」に組合員の代表を派遣するとともに、引き続き「ヒバクシャ国際署名」の取り組みもすすめています。

7月21日、オルガホールにて「平和のひろば2019 被爆ピアノコンサート」を開催し、200名を超える参加がありました。平和へのメッセージを込めて演奏されたピアノの音色に、多くの参加者が音楽の楽しさを感じ、平和の大切さを考えることができました。



平和の願いを込めて演奏された被爆ピアノを囲んで合唱

### 《被災地支援を継続しています》

●西日本豪雨被災地では、地域のつながりづくりを応援するため「復興支援イベント」や居場所づくりなどが継続して行われています。おかやまコープは、情報交換や交流、リラクスの場を提供することを目的に、6月からコープの店舗を使ってサロンを開始しました。

10月に開催されたサロンのカフェスペースでは、話が弾み、再会した方だけでなく、初めて会った方同士の交流の輪も広がり、人と人とのつながりを感じる場面もありました。

●9月3日の新見市の集中豪雨では、新見市社会福祉協議会の要請を受け、飲料水や飲料を冷やすための「冷凍蓄冷材」などの支援物資をお届けしました。地域の配送センター職員を中心に「新見市災害支援ボランティア」に参加し、土砂の掃除、家財の搬出なども行いました。また、罹災証明書が発行された被災者を対象に「個配手数料被災特別割引」を決定しました。

●「2019年台風被害緊急支援募金」にも、日本生協連等と連携し取り組んでいます。

**おかやまコープは、被災された方々に寄り添い、ふだんのくらしを取り戻すまで支援を続けてまいります**



手作りしたサンドイッチを食べながら会話をを楽しむ参加者 (10月5日 コープ北畠)



新見市地域福祉センターへ飲料水を運ぶ新見センター職員

## 就実生協

### 《就実生の勉強方法を調査しました!》

大学生、短大生のもっとも興味関心があることのひとつは、「テスト」です。そこで、就実生協学生部seedSが、就実生の勉強方法を学部学科ごとに聞き取り調査しました。記憶・暗記する勉強方法と、理解する勉強方法にわけて、約350人に聞き取りを行ったところ、学科によって人気の勉強方法に違いがありました。その調査結果を学科ごとに紹介することで、所属学科の今まで知らなかった勉強方法の発見・勉強効率アップにつなげてほしいと思います。今後は、勉強方法に関連する文房具やデジタル機器の紹介なども行っていきたいと思います。



## グリーンコープ生協おかやま

### 《「グリーンコープでんき」の共同購入》

グリーンコープでは「原発はいらない」という強い意思を持ち、市民発電所の建設、原発フリーの「グリーンコープでんき」の共同購入を進めています。

その中で、すべての電気契約者が負担している「託送料金（電線使用料）」には原発を開発・維持する費用が含まれていて、更に4月より一行政機関



の省令によって「原発事故の賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」が上乘せされることを知りました。原発事故の被害者が望むことは、責任も不明確なまま「国民が賠償費用を負担する」ことなのでしょうか？グリーンコープ生協おかやまでは、9月30日に託送料金学習会を開催しました。次回は11月30日(土) コンベックス岡山で開催予定です。(どなたでも参加可)





台風15号、19号で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

3.11 を忘れない みやぎ生協とコープふくしまから、被災地・宮城と福島のいまを伝えます

— まち・住まい・コミュニティ —

## 地域課題を解決できる自治組織をつくる

宮城県亶理郡山元復興ステーション

山元町は町域の約4割が津波で浸水しました。被災した住民の多くは、内陸に移転したJR常磐線が通るつばめの杜地区などの新市街地に集団移転し、新たなコミュニティを形成しました。沿岸部に残って暮らすことを選んだ住民たちも、地域コミュニティの再構築に向けて歩み始めました。

山元復興ステーションは、山元町の委託を受けたNPO法人神戸まちづくり研究所が運営する団体です。2012年11月の発足以来、住民に寄り添いながらコミュニティづくりの支援を続けています。

「当初は逆風のなかでの活動でした」とステーションを率いる橋本大樹さんは言います。行政とのコーディネーターとして参加した会議では「どうせ行政の代弁者だろう」と不信感を持たれ、不平や不満を聞くことから始めました。

信頼が変わってきたのは、ステーションの支援で住民自身が地域内の課題に取り組み、「自分たちもやればできる」という成功体験を積むようになってからです。

集団移転地に自治会ができた時、橋本さんは住民に「将来的には皆さんが自分たちで地域の問題・課題を解決できるようにならなければならない」と伝えました。



▲公園利用者の有志で公園管理会を組織し、清掃や樹木施肥などの活動を行なっています。  
(写真提供：山元復興ステーション)

一つは人口減少が急激に進んだため。もう一つは、住民と行政の“協働”でまちづくりを進めてほしいとの思いがあったからです。

沿岸部の中浜地区は震災を境に世帯数が315世帯から26世帯に減りました。笠野地区も磯地区も世帯数は震災前より激減しました。

人口が減れば当然行政の職員も減ります。「すると、例えば草刈など今まで行政が担っていたことを地域が行なう時代になる。そうなった時に受け入れ態勢ができていない自治会とそうでない自治会では、苦勞の程度に差が出ます」。

少ない住民で地域をどう維持していくか…。「何から何まで行政に要望するのではなく、普段から、この課題は行政に任せる、この事業は行政と一緒に実施する、これは自分たちが担うという分別をしておくことが大切です」。

橋本さんは「協働とは、住民と行政が対等な立場で意見を言い合えること」と言います。住民が自分たちで地域の課題を解決しようとする気運も、そうした関係のなかから生まれるのでしょう。

震災から8年半。コミュニティ再生はこれからが正念場です。

— まち・住まい・コミュニティ —

## 「帰ってきて良かったと思えるコミュニティづくり」

福島県広野町／広野町社会福祉協議会

「仮設住宅にいた頃の方が良かった」。地域住民が集う「ふるさとサロン」で根本さと子さん（広野町社会福祉協議会、以下社協）は、参加者がつぶやくのを耳にしました。広野町の避難指示が解除になり、町民が徐々に帰ってきて始めた頃のことです。

「自分は帰ってきても隣の家はまだ戻ってこない。お茶飲みする場所も近くにない。仮設住宅なら集会所がすぐそばにあった。だから仮設住宅の方が良かった、ということなのです」と根本さんは住民の複雑な胸のうちを語ります。

ふるさとサロンは「帰ってきて良かったと思えるコミュニティづくり」を目標に、社協が月1回開催しているイベントです。参加者の多くは高齢者で、陶芸や園芸、畑づくりなど多彩なプログラムが特徴です。社協のスタッフが運転するバスで、桜や紅葉を見に行くこともあります。

サロンの回を重ねることで、仮設住宅を懐かしむ声は次第に減り、「ここに来て友だちに会えるのが嬉しい」「帰ってきて良かった」という声が増えました。

一方、同社協の佐野光男さんは「高齢世帯だけ町に戻り、子ども世帯は避難先に留まったままの家が多い」と、避難を機に家族の形が変わったことを指摘します。高齢者の中には避難先のいわき市でかかった病院に今も通院している人がいます。「だが自分で車を運転して行ける人は少ない。昔なら同居していた家族の誰かが送ってくれたが、今はそれができない」（佐野さん）などの問題も出ています。

町内には新しいオフィスビルやスーパーができていますが、病院や交通網など生活インフラの整備はまだこれからです。「復興しているという実感は薄い」と根本さんが言うように、町が今よりずっと住みやすくなるにはさらに時間がかかるでしょう。

「帰ってきて良かったと思えるコミュニティ」を住民自身の手で築いていくのも、これからです。「私たちがいなくても活動できるよう、担い手を育てていければと思っています」。今はその助走期間。導きながら支えながらの取り組みが今日も続いています。



▲JR常磐線広野駅前には新しくオフィスビルやホテルが建ち、再開発が進みます。